

2025年度研究助成課題が決定しました

2025年度の研究助成は個別研究助成 67 件・育成研究助成 27 件，合計 94 課題と多数の応募があり，理事会で審議の結果，以下の通り個別 10 課題，育成 3 課題が決定しましたのでお知らせします（応募順，敬称略，所属・職名/学年は申請時のものです）。

個別研究助成（1年間）

氏 名	所属・職名/学年	課 題	助成金額 (万円)
平瀬 祥太郎	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授	日本における小型アワビ類の種多様性の解明	70
藤田 大樹 共同研究者：奥村 由純	京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所 研究員	ウオノエ科魚類寄生虫における新たな生活史の提唱：サッパノギンカをモデルとして	70
土井 航 共同研究者：野原 健司，松岡 卓司	鹿児島大学水産学部 准教授	スナガニが生息可能な河口砂浜の日本国内における地理的分布と遺伝的集団構造	70
松島 吉伸	北海道大学大学院理学院 自然史科学専攻 修士課程 2 年	アブセウデス上科の多様性解明	70
佐藤 大介 共同研究者：三浦 徹，小口 晃平， 本藤 あゆみ	東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻 博士課程 2 年	シリスコ多毛類の尾部を繁殖個体へと変態させる内分泌シグナルの解明	70
井上 香鈴 共同研究者：木村 妙子	三重大学 研究基盤推進機構 助教	塩性湿地の絶滅危惧種オカミミガイとキヌカツギハマシノミの初期生態の解明	70
鶴沼 辰哉	東北大学大学院農学研究科 水圏動物生理学分野 教授	暗期中断によるキタムラサキウニの成熟抑制：電照菊の手法はウニに効くか？	70
辺 浩美 共同研究者：泉 貴人	北海道大学大学院水産科学研究院 助教	テンプライソギンチャクとカイメンの共生を“化学で見る”	70
伊藤（阿部） 美菜子	国立科学博物館 標本資料センター 特定非常勤研究員	岩礁性海草藻場における底生生物相の解明：海草種が底生生物の多様性と群集構造に与える影響	70
大島 雅晴 共同研究者：島野 智之，Tshering Dorji， 蛭田 眞平，Jigme Tshering	京都大学理学部 学部 3 年	ブータン王国の淡水性ササラダニ類の多様性の解明と危急的な淡水環境の悪化の提言	69.5

育成研究助成（2年間）

氏 名	所属・学年	課 題	助成金額 1年目/2年目(万円)
Nurhikmah Tenripada	広島大学統合生命科学研究科生物資源科学プログラム 博士課程後期 1 年	シャコガイのカラフルな外套膜は生息水深に影響を与える	69.8 / 81.2
高橋 陽大	石巻専修大学理工学部 学部 4 年	干潟の普通種コケガイの謎に迫る：生活史・繁殖生態・分類の再検討	100 / 100
小野 鈴太郎	北海道大学大学院理学院 修士課程 1 年	無腸類を対象とした生殖器官のマクロ進化パターンの解明	100 / 100

編集後記

2025年度最初のうみうし通信です。早いもので，今年も半分が過ぎました。今号の表紙は久々にイボウミウシ科のウミウシ，タテヒダイボウミウシです。本種は正中線上に青灰色の畝が縦走することで，近似のソライボウミウシと区別されます。体は大きく11cmほどになり，このグループでは最大の種です。

今回は鶴岡市立加茂水族館のご紹介をいただきました。先日，水族館を訪問させていただき，水族館の歴史のお話を聞

いたり，クラゲの飼育についての説明や研究施設などを見学させていただいたことがきっかけです。クラゲに救われた水族館，ぜひ，みなさんも訪れてみていただけたらと思います。

今号では2記事の投稿をいただきました。パンダが食べ残した竹をイカの産卵床などに活用する研究の紹介と，サンゴミズムシ科の報告です。どちらも珍しく，大変興味深い内容です。うみうし通信では情報提供などの投稿も歓迎しております。